

課題発見ゼミナール 小田切クラス希望者：3名

私は学びたいと思っている分野はあるが、まずは学ぶために必要な基礎能力を身に付けたいと考えた。小田切教授のクラスを志望したのはそうした能力を身につけることができると考えたからだ。社会科学の基礎を身に付けることができ、ディスカッションやプレゼンテーションの能力、資料などから適切な情報を取り出しまとめることができる、など今後も役に立つであろう能力を身に付けることができるのは大いに魅力を感じた。そのため、小田切教授のコースを志望する。

大学における学びはこれまでの中高の学習とは異なり、主体的に学ぶことが求められる。さらに、その学びにおける学習方法も、単にネットや文献から引っ張ってきた内容を組み合わせ知識とするということではなく、そこに自分の考えを含め、あくまでも文献、資料は自身の考えを補強するものとして扱うことが求められる。

このように、大学における学びはその学習方法のもとからこれまでと大きく違うので、まだまだ僕自身新しいやり方に慣れていないというのが本音である。ましてや、ある程度自分の考えがまとまってもそれを補強する文献をどこから引っ張ってきたらいいのか、どう扱ったらいいのかとか、論文とは言うけれどレポートとの境目って何か、まだまだ知らないことが多いことには変わらないので、この講義をそれらを学べる機会としたい。

これまでの講義で学んだように、大学では知恵ある者を目指すべきである。なぜならば大学で過ごす時間は休息ではなく、社会人に向けての準備期間であるからだ。知恵とは判断する力になるものである。まず初めに興味を持ったものを調査し、調査していく中で次第に知識が身についてくる。すると、興味の持ちどころが変化する。更に調べ、知識を体系化していき、そして知恵となる。つまり、私たちが知恵ある者になるためには、大学生活の中でこのような事を繰り返し練習することが大切なのである。更にその知恵を他者に発信する力、共有する力、議論する力なども大切である。なぜならば、社会に出て他者との関わりは必ずあるからだ。より良いものを生み出すには論理的な主張を心がけ、他者との対話を積み重ねていく必要がある。

小田切先生のクラスでは、これらの能力を実践練習の中で修得することを目的としているため希望した。情報収集や、大学で必要となる文章を論理的に読み書きする能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力などを身につけることは大切である。